

## はじめに

環境科学調査センターは、市民の皆様の生活環境を守り、本市の良好な環境を確保するため、科学・技術的な側面から環境行政を支える環境に関する総合的、専門的な調査研究機関です。

当センターは、昭和 46 年に市衛生研究所内に公害研究所として発足し、今年 4 月に 45 周年を迎えました。研究所が発足した昭和 40 年代の名古屋市の大気は、硫黄酸化物による汚染が激化し、市南部で呼吸器疾患が増加して問題となっていました。昭和 40 年代後半になって各種対策の進展により硫黄酸化物による汚染は改善のきざしを見せたものの、自動車交通量の増加とともに窒素酸化物や一酸化炭素による汚染が進行しました。また、市内河川の水質は、BOD が年平均で 100ppm 近い値を記録する河川も見られるほど汚濁が進んでいましたが、昭和 40 年代後半から排水規制や下水処理場の新設・増強などにより BOD は大幅に改善されました。

公害研究所の発足から 45 年後の本市の大気汚染や河川の水質汚濁は、昭和 40 年代には達成困難と言われた状況にまで格段に改善されています。これもひとえに市民・事業者・行政など各分野の諸先輩が大変な御努力を積み重ねられた賜物であると深く感謝しています。

一方現在においても、大気については微小粒子状物質 (PM2.5) や再び増加傾向にある光化学オキシダント (Ox), 水質については自然の水源を持たない都市河川で不定期に発生する悪臭や斃死魚, 世界的な環境問題としては地球温暖化や生物多様性の喪失など、さらに改善すべき課題や新たな課題を有しています。

こうした課題の解決に向けて、当センターは様々な調査研究や環境監視等を行っております。平成 27 年度は、名古屋大学との共同研究により発見した 1,2 -ジクロロエタンをエチレンに無毒化する細菌とその細菌を使った浄化方法について特許を取得しました。また、大気環境目標値の見直しについて諮問した名古屋市環境審議会の部会では、PM2.5 等の効果的な対策を検討いただくために、長年蓄積してきた知見をその都度提供して委員の皆様と議論を深めていただいています。

この年報は、当センターにおける平成 27 年度の業務内容と調査研究の成果を取りまとめたものです。ご高覧いただき、ご意見やご指導を賜れば幸いです。市民の皆様のご健康と安全を守り、より良い環境を次の世代に引き継ぐため、職員一同研鑽に努めてまいります。引き続き皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

平成 28 年 12 月

名古屋市環境科学調査センター  
所長 渡 邊 英 之